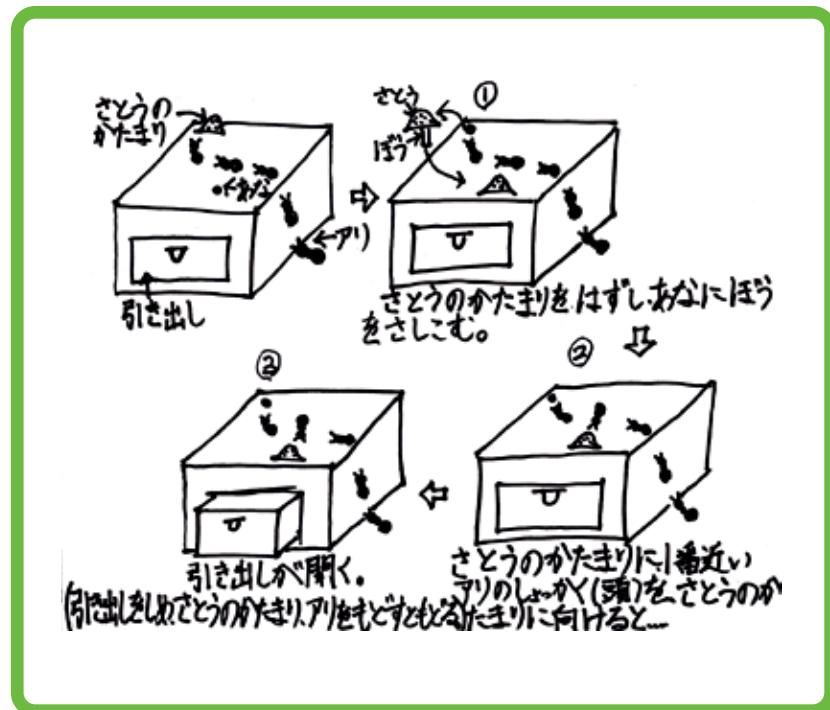


アリの行列 製作過程

製作責任者：岩原 宏志・川島 英明 -

〈原案〉



〈完成品〉

「アリの行列」のアイデアを見て
作り手としては「これは考えた
ことが無かった」と、面白みを
感じました。

本体の材料として、ほんのり
赤みがかった楠を用いました。
蟻が歩く地面の雰囲気を出せ
たのではないかなと思います。



元のアイデアを少し変えさせて頂いて、蟻が向きを変える仕掛けを増やして5つ作りました。
また、ろくろ職人の協力のもとに、ゴールの砂糖に加えてスタートにアリの巣を作り、蟻が
スタートからゴールまできれいに一列に並ばないと引出の鍵が開かないという仕掛けとしまし
た。5つの仕掛けはターンテーブルのようなもので、適当に動かすと、蟻の列が乱れると同時に引出に鍵が掛かります。

蟻の形はデザイン化したのですが、全て同じではなく、触覚や脚の向きなどを少し変えて種類を使い分けています。

製作上は、材料の楠は木目の向きが一定ではなく、逆目（板を平らに削った時に表面にささくれが出来ること）が出やすく、これを滑らかにするために苦労しました。

また、引出に黒いローズウッドを用いたことで、作品の色にコントラストが出来て、引き締まった印象に仕上げられたのではないかと思います。

引出のつまみの形は、蟻の頭をイメージしています。さて最後に問題です。

実はこの作品には、全部で20匹の蟻が用意されています。

しかし、表面の蟻を数えると19匹しかいません。迷ってしまったのでしょうか。

最後の一匹の蟻を見つけて下さい。アリの巣が気になりますが…？

<製作過程>

外箱の部品を作ります。

このような部品からできています。



丸い穴には仕掛けの部品が
入ります！

組み立てて接着します。

巾の広い輪ゴムを何本も使って
しっかり固定します。





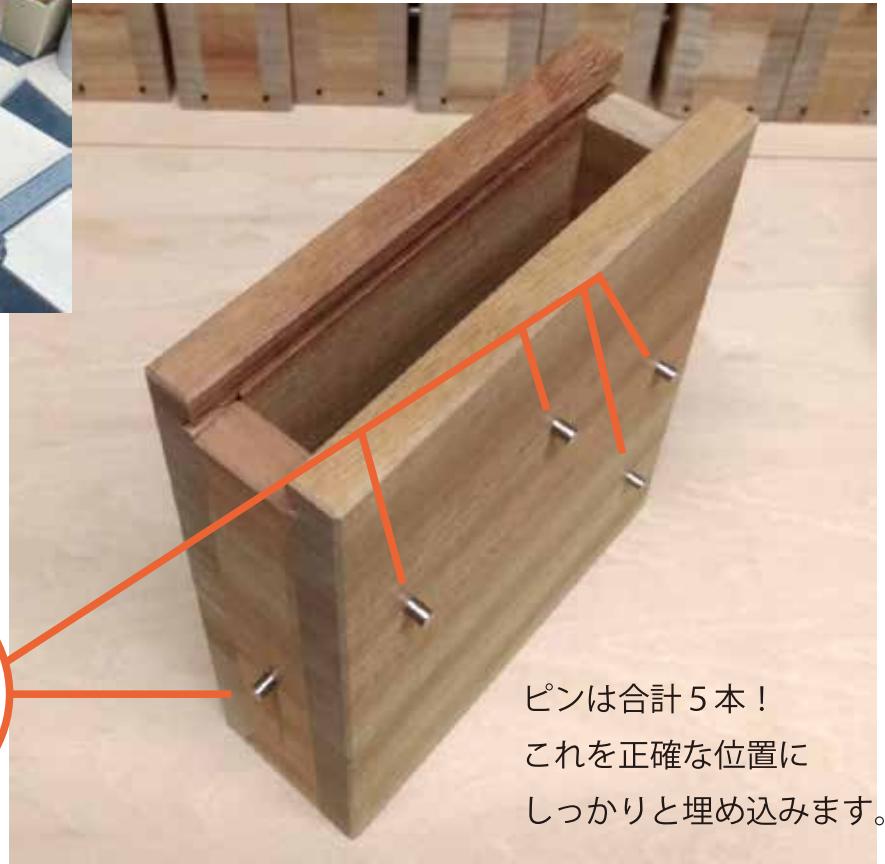
外箱ができました。

よ～く見ると丸い穴にちょっと加工してあるのが
判るでしょうか？？
この加工が仕掛けの一部になります。



内箱（引出し）を組み立てます。

内箱（引出し）ができました。
仕掛けの重要な一部を担うピン
が差し込まれています。



ピンの位置の精度が
とっても重要なんです！

ピンは合計 5 本！
これを正確な位置に
しっかりと埋め込みます。



外箱に一匹ずつアリを配して
いきます。

丸い板が見えますか？
ここが動きます！



引出しを完全に中に仕込み
ました。

引き出しのツマミ（白い木）
の形が特徴的！



ドーナツ？
いいえ、蟻の巣ですよ！

アリの巣とお砂糖を貼り付けて出来上がりです。
この後塗装を施して、完成となります。



アリの行列がきれいに並ぶと
このように開けることができます。

さて、問題の答えです。
もう一匹のアリは、ここにいました。
箱の中です。ちょうどアリの巣の辺り
にいるのです。

